

授業科目	看護の統合と実践Ⅱ		
担当者名	新小山市民病院看護部長 西村美和	実務経験	○
年次	3年次	学期	前期
単位	1単位	時間数	15時間
授業科目の概要	組織として質の高い効率的・効果的サービスを提供するためにはよりよい看護を提供していくための看護のしくみがどうなっているか、多くの看護職者や医療・福祉関係者が同時に働くためには組織がどのように機能すればよいのかを知り、組織の一員として一貫した行動をとる必要がある。本講義では、看護管理の概念と原則を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職者個人および看護組織が担う役割を理解する。また、世界の疾病構造の現状と、諸外国の保健・医療・福祉の課題や、国際社会における看護の役割について理解する。		
授業科目の到達目標	1. 看護管理についての基礎的知識を修得し、組織の中での看護師の役割を説明する。 2. チーム医療における看護師の役割、リーダーシップの必要性について説明する。 3. 組織としての看護サービスのマネジメントについて説明する。 4. 看護管理における人材育成の必要を理解し、その重要性について説明する。 5. マネジメントに必要な知識と技術について理解する。 6. 国際協力の仕組みと看護職の活動の実際を知る。		

回数	内容・方法	課題	担当
1	【講義】看護管理学の定義・概念と基本的要素		西村 美和
2	【講義】看護ケアのマネジメントとチーム医療		西村 美和
3	【講義】看護職のキャリアマネジメント		西村 美和
4	【講義】看護サービスのマネジメント		西村 美和
5	【講義】看護サービスのマネジメント		西村 美和
6	【講義】リーダーシップとマネジメント		西村 美和
7	【講義】国際看護の概要と活動の実際	事後レポート	
8	【試験】		

テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 医学書院		
参考書			
成績評価の方法	筆記試験配点 90点・レポート配点：10点		
その他、受講生への要望など	【看護管理】 療養生活を送る人々の多様なニーズに対し、安全で効果的な看護を提供するために必要な看護マネジメントの実際を学びます。また、これまでに獲得した知識・経験・態度を活かしながら、チームでの実践を通して、チームのあり方と看護サービスについて学びを深めていきます。 【国際看護】 世界の人々を看護の対象としてとらえ、世界の保健医療に関する課題について学んでいきます。また、日本国内の在留外国人や訪日外国人への健康支援に関して、対象者の文化的多様性に配慮する看護について学びます。		

授業科目	看護の統合と実践Ⅲ		
担当者名	渡邊 美紀子	実務経験	○
年次	3年次	学期	前期
単位	1 単位	時間数	30時間
授業科目の概要	看護現場では、複数の患者さんのニーズの充足のための看護実践や看護業務を同時に行う必要があるため、優先順位を考えた臨床判断能力が求められる。また、近年、医療の高度化、在院日数の短縮化や地域包括ケアシステムの推進にむけて多職種との協働が不可欠である。本科目では3年間の学習内容を活用して、より臨床実践に近い形で学習することで、臨床現場に適應できるような基礎的知識と技術を学ぶ。具体的には、臨床現場において遭遇しやすい状況・場面を想定し、時間管理や援助の優先順位、多重課題、チーム内の報告、連絡、相談等の要因を組み込んだ複数事例を基にし、シミュレーション学習する。		
授業科目の到達目標	1. 複数患者の安全・安楽に考慮した、援助の優先度決定の方法を理解する。 2. 多重課題状況下で、複数患者の優先度を変更し行動化する。 3. 複数患者の疾患を理解して優先順位を考えた看護計画を立案し、グループで実践する。 4. 看護実践中に起こった突発的事象に対して、対処方法を判断し実施する。 6. 看護の質を保証するコミュニケーションの実勢を理解する。 7. リフレクションを通して統合実習に向けた自己の課題がわかる。 8. その場で与えられた臨床課題に対し、学修した知識を統合し、模擬患者へ必要な援助を実施する。		

回数	内容・方法	課題	担当
1	【講義・グループワーク】オリエンテーション、複数受け持ち時の看護 1) 患者A・Bそれぞれの状態 2) 患者A・Bそれぞれに必要な看護	事前課題 指定用紙	渡邊 美紀子
2	【講義・グループワーク】複数患者の優先順位を考えた行動計画立案 3) 患者A・Bそれぞれに必要な看護の優先順位		渡邊 美紀子
3	【講義・グループワーク】複数患者の優先順位を考えた行動計画立案		渡邊 美紀子
4	【講義・グループワーク】看護の質を保証するための医療者コミュニケーション 1) 看護チーム内での報告・連絡・相談 2) 多職種（医師）との連携		渡邊 美紀子
5	【講義・グループワーク】多重課題・突発的事象		渡邊 美紀子
6	【講義・グループワーク】SBARについて		渡邊 美紀子
7	【技術演習】導尿、点滴管理など	事前学習	渡邊 美紀子
8	【技術演習】導尿、点滴管理など		渡邊 美紀子
9	【演習】■統合演習 看護実践能力 複数受け持ちの看護の実践	事前課題 指定用紙	渡邊 美紀子
10	【演習】■統合演習 看護実践能力 複数受け持ちの看護の実践		渡邊 美紀子
11	【演習】■統合演習 看護実践能力 複数受け持ちの看護の実践		渡邊 美紀子
12	【演習】■統合演習 看護実践能力 複数受け持ちの看護の実践		渡邊 美紀子
13	【演習】リフレクション	振り返りレポート	渡邊 美紀子
14	知識の統合試験		阿部 未映子
15	知識の統合試験		阿部 未映子

テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院 系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院
参考書	適宜紹介する
成績評価の方法	①担当：渡邊（配点：100点＊細かい配点につきましては1回目の講義にて説明します）合格基準：60点以上 ②担当：阿部（配点：100点）合格基準：80点以上 ＊①および②の両方が合格基準に達していない場合、本科目の単位は認定されない。
その他、受講生への要望など	複数の患者が対象となるため、新たに優先順位を考えた判断することが必要になる。その考え方を理解したうえで、基本的な看護技術を患者の状態（発達段階、病態、治療方法、その場の状況）に応じて提供できる実践力を養う演習をグループ毎に行います。複数受け持ちの看護実践については、ロールプレイングまたはシミュレーション方法を用いて学習していきます。また、卒業前統合演習とし、学修した知識や技術を統合し、臨床判断をもとに看護実践を行い、少しでも不安なく臨床現場にて活躍できるような学びにしています。 演習における多くの仲間とのグループワークを経験して、事例に含まれる多様な関係者にも視野を広げられることを期待しています。（渡邊） 「知識の統合試験」では、必修問題に類似した内容を出題します。日頃からの積み重ねてきた学びを十分に発揮できるよう、しっかり準備して臨んでください。（阿部）

授業科目	看護の統合と実践Ⅳ		
担当者名		実務経験	○
年次	3年次	学期	前期
単位	1単位	時間数	30時間
授業科目の概要	看護研究の基礎的知識と看護専門職者として研究的視点を学び、看護研究の意義を理解し、生涯にわたり学習する姿勢を身につける。		
授業科目の到達目標	1. 看護における研究の意義と基礎的知識を理解し、生涯にわたる看護研究実践の基盤をつくる。 2. 看護研究活動を体験し、研究的視点をもち学びを深める。 3. ケースレポートを通して実践した看護を振り返り、自己の看護観を深める機会とする。		

回数	内容・方法	課題	担当
1	看護研究とは 研究の意義		鈴木美津枝
2	看護研究の始め方		鈴木美津枝
3	研究テーマ 研究目的		鈴木美津枝
4	研究デザインについて		鈴木美津枝
5	研究方法について		鈴木美津枝
6	研究における倫理的配慮		鈴木美津枝
7	ケースレポートとは 研究計画書とは		鈴木美津枝
8	【講義・演習】研究計画書について	計画書を書く	鈴木美津枝
9	【講義・演習】研究計画書について	計画書を書く	鈴木美津枝
10	【講義・演習】ケースレポート演習	ケースレポート	担当教員
11	【講義・演習】ケースレポート演習	ケースレポート	担当教員
12	【講義・演習】ケースレポート演習	ケースレポート	担当教員
13	【講義・演習】ケースレポート演習	ケースレポート	担当教員
14	【講義・演習】ケースレポート演習	ケースレポート	担当教員
15	【講義・演習】ケースレポート発表・まとめ		担当教員

テキスト	黒田裕子の看護研究 Step by Step 医学書院		
参考書			
成績評価の方法	研究計画書配点：40点 ケースレポート配点：60点		
その他、受講生への要望など	看護研究の意義と方法の理解をめざすとともに、興味ある問題を追及し、今後の看護へ活用していくことを期待している。		

授業科目	芸術		
担当者名	美術館・陶芸美術館 学芸員	実務経験	○
年次	3年次	学期	前期
単位	1単位	時間数	15時間
授業科目の概要	芸術に触れることで、看護に必要な感性や観察眼を養う。		
授業科目の到達目標	1. 芸術作品鑑賞を通して細部に気づく観察力を身につける。 2. 陶芸を通して自分の感情や思いを形にする。 3. 正解のない問いに向き合うことで多様な価値観を認める。		

回数	内容・方法	課題	担当
1	【講義】ガイダンス	事前レポート	内部教員
2	【講義・演習】益子焼窯元よこやま（陶芸体験）		陶芸作家
3	【演習】益子焼窯元よこやま（陶芸体験）		陶芸作家
4	【講義・演習】益子陶芸美術館（陶芸鑑賞）		益子陶芸美術館 スタッフ
5	【演習】益子陶芸美術館（陶芸鑑賞）	課題レポート	益子陶芸美術館 スタッフ
6	【講義・演習】県立美術館（美術鑑賞）		栃木県立美術館 学芸員
7	【演習】県立美術館（美術鑑賞）		栃木県立美術館 学芸員
8	【演習】グループワーク・発表、課題レポート	課題レポート	内部教員

テキスト	無		
参考書			
成績評価の方法	課題レポート75点（事前学習25点・課題レポート50点）グループワーク10点、出席15点		
その他、受講生への要望など	芸術作品鑑賞を通して、背景にある感情やメッセージを深く読み解く姿勢を身につけてほしい。表現活動を通じて自分自身の感性を磨くとともに、他者の多様な表現（価値観）を尊重し、共感する心を育んでほしい。		

授業科目	健康とスポーツ		
担当者名	野間 明紀	実務経験	○
年次	3年次	学期	前期
単位	1単位	時間数	15時間
授業科目の概要	身体活動(運動)についての生理学的知識や活用法を学び、スポーツや運動を通して健康管理について考える機会とする。また、スポーツを通して、コミュニケーションスキルを養う。		
授業科目の到達目標	1. 身体活動の意義を通して、疾病予防のみならず健康増進にむけた正しい認識と知識を修得する。 2. 実際のスポーツや運動を通して身体面や精神面に与える影響について説明する。 3. 学生間のコミュニケーションをとり、交流を深める。 4. リーダーを中心として、組織的に活動できる。		

回数	内容・方法	課題	担当
1	【講義】健康と運動、運動の必要性、生理機能の面から見た運動の必要性、運動を行う時の原則等	運動の必要性とその効果について事前学習する	野間 明紀
2	【講義】病気と運動(循環器、呼吸器等の病気に対する運動の効果) (2回の講義に対するレポートあり)	病気に対する運動の効果について事前学習する	野間 明紀
3	【演習】バレーボール	実施する種目の心身への影響を事前学習する	野間 明紀
4	【演習】バレーボール		野間 明紀
5	【演習】バドミントン	実施する種目の心身への影響を事前学習する	野間 明紀
6	【演習】バドミントン		野間 明紀
7	【演習】卓球	実施する種目の心身への影響、ルール等を事前学習する	野間 明紀
8	【演習】卓球		野間 明紀

テキスト	無		
参考書			
成績評価の方法	レポート・演習参加態度		
その他、受講生への要望など	演習時は、運動しやすい服装で参加してください。 演習時には体調を整えて参加してください。また、準備や片付けなどを協力し合う、積極的な参加態度も重要視します。		